



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

画像診断室スタッフの役割と関わり

画像診断室では
診療放射線技師、
I Vナース（造影
剤担当看護師）、
画像検査担当看護
師が働いています。



診療放射線技師は主に一般撮影、CT、MRI、超音波、乳腺撮影（マンモグラフィ）、アイソトープ、TV、血管撮影における検査の撮影を行っています。撮影した画像は放射線科医または各科医師により読影診断されるため、診療放射線技師は常に医師が診断しやすい画像を提供できるように頑張っています。

I VナースはCTやMRIで使用する造影剤の注射を担当しています。造影剤とは画像をより見やすくし、診断能を向上させる目的で使われます。

まれに副作用を伴うことがあるため、常に患者さんの状態を確認しつつ、もし副作用が起きた場合でも、迅速に対応できるよう定期的にトレーニングを行っています。

画像検査担当看護師は内視鏡、TV、血管撮影で行う検査や治療のサポートに付き、検査中の患者さんの容態を確認したり、薬剤の投与、カルテ記載、物品の準備や片付けなど幅広く活躍しています。

画像診断室内では医師をはじめ、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学士、言語聴覚士などの多職種が関わる検査や治療が多くあり、チームとして患者さんに安心安全な医療を提供できるよう日々努力しています。



碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料
調査室 ☎(41)4566

No. 50 大浜藩が生まれて まもなく250年（4）

『沼津略記』という文書の1768年11月15日のところに、「このたび、6千石を三州大浜にいただき、信州佐久郡7千石は以前の通りの領地である」という記述があります。

これは、水野忠友が従来の信州佐久郡での7千石と、新たに三河大浜で6千石を將軍からもらったことを意味しています。領地は1万石を超えたため、旗本から大名となり、忠友は藩の役所を大浜村に置くことにしました。こうして「大浜藩」は立藩されました。

碧海郡内の幕府領であった、大浜村（2856石）、鷺塚村（2013石）、小川村（727石）、新堀村（430石）、赤松村（378石）、高木村（256石）、桜井村（199石）、野寺村（34石）の8ヶ村が忠友の支配地となりました。

桜井村などは相給^{あいきゆう}といわれ、他の領主と分け合い支配する村もありました。棚尾村（1246石）、平七村（275石）は岡崎藩領であったため、両村が水野領となったのは13年後のことでした。その後、伏見屋新田（1178石）、伏見屋外新田（195石）も水野領となりました。

水野家への領地引き渡しは、1769年6月13日でした。大浜村庄屋石川家の文書には、このときの様子が詳しく書かれています。水野家からは、代官の高城弥吉、手代の五十川武左衛門ら総勢10人が引渡しに臨み、水野領となる村々の庄屋、組頭などの村役人は、羽織はかまの正装で三河代官所のある赤坂宿（豊川市）の入り口で出迎えをしています。



△赤坂から見る東海道松並木